

# 帯広畜産大学同窓会報

第10号 平成15年8月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学同窓会事務局発行

## 第10号発刊によせて



会長 高田 薫 (S31 総農)

会員の皆様、御健勝にてご活躍のことと推察しお慶び申し上げます。

さて、このところ私は、地元発行の新聞を見るのを楽しみにしています。母校にかかわる記事が多く、しかもかなり詳しく記載されています。そのいくつかについて概要を紹介します。先ず、事業の概要についての記事

1. 今年度も帯畜大に～文科省の「サイエンス・パートナーシップ・プログラム (SPP)」理科に強い子を育てる事業が昨年から実施され帯畜大は連続指定をうける
  2. ペンチャー展開を計画～単科大では全国初、共同研究数110件突破(豊富な研究の成果を新たな地場産業の創出に生かす)
  3. 産学官新事業の展望を探る～ヒューマンネット十勝(産学官連携の要となる帯畜大の展望を探る)
- 事業の活動内容や研究室の試験、研究の記事では、
- A. 農業土木の視野広がる～帯広農高2年生、畜大で体験入学(文科省の理工系教育推進事業)
  - B. 身体を守るしくみを学ぶ～「スーパーサイエンス・ハイスクール (SSH) 事業」畜大教授が講義
  - C. 寄生虫の採取に挑戦～畜大教官、高校教諭実験や意見交換(畜大教官と管内高校の理科教員の連携事業)
  - D. トンネルで農産物貯蔵～冷蔵庫保管に匹敵
  - E. 食用ヘダチョウ飼育～雑草餌に低コスト化、「十勝新産業に」
  - F. 太陽熱でコスト低減へ～農業残さ物を乾燥処理実験
  - G. 環境保全型農業の研究～微生物農薬の病害虫防

除効果(パーテイシリウム・レカニ～土壤中に存在するカビの一種)植物・昆虫寄生生物学研究室等がありました。

地元新聞に掲載されたこれらの活動について、母校の資料によりますと、1のSPP事業は、特別講義、科学技術理科実験プログラム、教員研修等計5回実施されています。

又、理工系教育推進事業では、帯広農高生の体験入学を含め、出前授業等20回に及んでいます。このような地域連携活動を通して、地域からの信頼と高い評価を得ています。

一方、これらの事業は、大学をあげての取組みによるもので、母校の将来に新たな息吹を感じています。

国立大法人化法も成立し、母校も全国89の国大法人の一つとして、来年4月からのスタートとなりましたが、これまでの蓄積された豊富な実績のもと母校の特色ある教育の推進を心から期待しています。

なお、地元帯広・十勝を中心に行政機関、産業界による組織(帯畜大整備拡充促進期成金、帯畜大後援会)が強力な支援活動をすすめています。

同窓会は、これら組織との連携をはかり母校の発展・充実をサポートしたいと思います。会員各位のご支援ご指導をお願いいたします。

(〒080-0838 帯広市大空町6丁目4-1)

## 同窓生の皆様に近況報告



学長 鈴木 直義 (S30 獣医)

2002年1月1日に母校に戻ってから、私は本学の発展充実を願いながら2003年度を迎えております。本年の学内の年頭挨拶で、私は下記のような要点を述べました。本学は、人類の動植物生産と安全管理

に基本をおいた農畜産物生産から環境および食品衛生に至る一連の教育と研究を実践し修了した者を社会に専門技術者として送りだしております。本学は、長期到達目標として農畜産物生産向上と食品安全衛生監視に特化されたアジア唯一の「畜産大学大学院重点化単科大学」へ発展充実のために全学教職員一丸となって努力したい、と念じております。

2002年10月に、文部科学省が新設した「生命科学研究拠点(COE)組織」として全国26機関の一つに、本学は動物性蛋白資源の生産向上と食の安全確保、とくに原虫病研究を中心として」の研究プログラムで採択されております。我が国の大学院博士課程を有する大学の中で、世界のトップレベルの大学と伍して専門学術研究教育水準が勝る大学づくりと、世界をリードする創造的人材を育成する組織に、文部科学省は研究予算を重点配分するために設定したものであります。本学の長期到達目標に近づくために、全国共同利用施設 原虫病研究センターが重点研究中心核として学内地域共同研究センター、畜産科学フィールドセンターおよび獣医・畜産科学科教官の協力の下に着実に前進したい、と念願しております。本学は、我が国の「生命科学COE拠点大学」の一つとして先頭を走る栄誉と自覚をもって、本学における研究成果と人材育成により国際社会から認められる畜産学専門店大学として前進する覚悟でおります。大学改革の荒波の向こうから、少子化という大学にとって本当の危機が目前に迫っております。こうした時期こそ、本学は本学の存在意義を社会に示し、社会の理解と協力を仰げる「社会学連携」の大学として、まず、自前の博士課程設置と修士課程整備の基盤構築に努力して参ります。今後とも、同窓生の皆様方の絶大なる御支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

## 「売れ筋をつくる」

副学長 佐々木 市夫

大学における国際開発協力の環境が大きく転換しようとしています。従来、大学の国際開発協力は、教員個人として援助機関からの委嘱による参画でした。そのため、一般的には、教員が参画しても、「好きでやっているのじゃないの」、「留守中の大学業務に支障がきたすので困るんだ」などの声が聞こえてきておりました。ただ、本学は、長い間、国際開発協力に取り組んできましたので、個人参画に対する比較的暖かい雰囲気が学内にありました。さて、国立大学が法人化しますと、教員個人の参画から大学「組織」として受託契約による開発協力が可能になります。契約を結んでプロジェクト受託できれば、それで獲得した資金で代行講師も雇えるし、途上国での実践的研究の機会も増えることになります。

しかし、本学のこれまでの経験を活かすといっても、この可能性を現実化することの道は容易ではあ

りません。まず、この第一歩として、平成14年12月に「帯広畜産大学国際開発協力活動準備委員会」を新設しました。そこで、国際開発協力のための大学データベース登録に向けて、「どんな受託可能なプロジェクトがあるか」などの調査を開始しました。また実務経験の豊富な専門家を招聘し、講演会も予定しております。

こうしている中、励ましのメッセージが二つありました。一つは、文科省から、平成15年度の「大学における国際開発協力促進のためのサポートセンター」におけるプロジェクト受託モデルを本学と連携してつくりたい、とのお言葉が届いたことです。もう一つは、本学のOBで、この道の大ベテラン山口公章氏から、本学が「本気で」受託に取り組むなら、次の3段階、「調べる」、「売れ筋をつくる」、「売り込む」をしっかりと歩め、とのおアドバイスをいただいたことです。

これから本準備委員会は、このアドバイスを受けて、大学として何を売りとするかの「売れ筋をつくる」にまい進したいと考えております。OBは有難いものです。

## 「大学の責任 その2」

副学長 長澤 秀行 (S53 獣医)

前号にて、「大学の自治」あるいは「学問の自由」は大学の自主的判断による教育と研究を保証していますが、これは無条件で与えられた特権ではなく、社会が大学に期待して付託したものです。つまり、大学に自治を与えることにより、社会的に有意と判断された機能が果たされることを社会が期待し、大学はこれに応える責任がある。というようなことを申し上げました。来年4月から国立大学法人帯広畜産大学となっても、大学の自治は保証され、大学の責任が問われることにも何ら変わりありません。

先日、6月21日に開催された関東同窓会に参加させていただき、田中正三会長はじめ、多くの同窓の皆様から貴重なご意見を伺いました。「よくがんばっている」というお誉めの言葉、「法人化になって大丈夫なのか」という心配、「なっとらん」という叱責等々、また、具体的な大学改革の提案も少なからずいただき、大変示唆に富むものでした。獣医・農畜産分野で活躍されておられる方々からのご意見ですから、全てが「社会が大学に何を求めているのか」という実際的な内容でありました。

国立大学法人化に対しては、様々な危惧や懸念がありますが、現在の国立大学は全国的に過去のしがらみや慣行で、がんじがらめであることは事実です。内部の力では根本的に改革できないことも多く、今回の法人化は、設置形態を改め、抜本的な改正を実施する絶好のチャンスであってほしいと思います。法人化後も、従来通り、必要な経費は税金によって賄われます。国民の税金を預かる以上、大学の責任を果たすことは当然の義務と考えます。

直接、大学運営に加わることのできない同窓の皆様  
に、安心して大学を見守っていただけるように、大学  
内部の者達が社会情勢を正確に把握し、社会への責任  
を果たすべく、日々一歩でも前進するように切磋琢磨  
することが私たち大学内部の者の責任であると思  
います。今後も戦略を持って、社会に高く評価されるよ  
うな大学づくりに努めたいと考えておりますので、同  
窓の皆様におかれましては、変わらぬご支援をいた  
だきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ☆ 学科などの近況 ☆

### 獣医学科のこの1年



獣医学科長 齋藤 篤志

同窓諸兄姉におかれましては、ご健勝でご活躍の  
こととお慶び申し上げます。

各位におかれましては、遠くはなれてお暮らしの  
方が多いと存じますので、獣医学科のこの1年の動  
きについてお知らせいたします。所属等が多少複雑  
ですので所属については触れませんが、極めて活発  
な人事が行なわれました。品川森一先生が定年を前  
に農水省関連機関に転出され、後任に石黒直隆先生  
が教授にられました。繁殖の佐藤邦忠先生が定年  
退官され、後任には岩手大学から三宅陽一先生が来  
られました。また、15年度予算の成立に伴い、牧野  
壯一先生が教授に昇任されました。獣医学教育充実  
の一つの解決策として、畜産科学科の4名の教官定  
員を流用し、臨床分野と公衆衛生分野の教育 研究  
を充実するために、外科の大星健治先生が教授に、  
山岸則夫先生が助教授に昇任するとともに、学外か  
ら川本恵子助教授と前田秋彦助教授を迎えました。  
大星先生の後任にはウマの専門家として佐々木直樹  
助教授を迎え、本学における獣医教育の充実が計ら  
れてきているのは事実です。しかし、この間にも獣  
医学教育改革の嵐は止むことがなく吹き荒れ、腰を  
すえた生き残り策を立てなければ、教員の一本釣り  
と草狩り場になることは必定です。何れにしまし  
ても、本学における獣医学教育の未来は、現在文部科

学省で行なわれている獣医学教育に関する協議会が  
今年度末までにだす獣医学教育充実に関する結論に  
かかっているのが現状です。

何処の大学も、大学の「独立法人化」と「遠山プ  
ラン」による国立大学の再編統合の嵐の中におかれ  
ています。畜大丸は船長（鈴木直義学長）補佐体制  
として航海士陣（学長特任補佐、学長補佐）を整備  
し、荒海を航行しております。

お近くにおこしの折には是非ご来学願ひ、大学の  
生き残りについてご助言 ご示唆をいただければ幸  
いです。

### 畜産科学科

松岡 栄

卒業生の皆様には、地域で、職場で、そして家庭  
で、益々、お元気にご活躍のことと思います。

本学では、昨年の後半から今年の3月にかけて、  
旧学部棟（総合研究棟1号館）の改修第1期工事が  
行われ約1/3が改修されました。昭和30年代、40年  
代の木造の校舎を知っているものには、今回改修さ  
れました研究室、廊下、トイレなどの景観には隔世  
の感を感じます。ただし、国の予算の関係でその後  
の工事が中断しております。1日も早い完成が待た  
れているところです。

今春、本学科では、3名の教授が定年退官されま  
した。食料生産科学講座生産システム制御科学分野  
の宮本啓二先生、環境総合科学講座地域環境工学分  
野の小柳敏郎先生、畜産生命科学講座細胞分子制御  
科学分野の中野益男先生で、それぞれ38、35、26年  
間本学に在任され、本学の発展にご尽力下さいまし  
た。退官された先生にかわり新しい先生が加わりま  
した。生産システム制御科学分野には柴田洋一教授  
が4月1日付けで着任されており、細胞分子制御科学  
分野には石井 達教授が8月1日付けで着任する予  
定です。また、現在、学科内での昇任人事が進行中  
です。これが完了しますと、新たに7名の教授が誕  
生する予定です。これにより本学科の研究教育体制  
がさらに充実されるものと期待しております。

本学は、昨年、かつてない大規模な学科改組を行  
い、それまでの畜産管理学、畜産環境科学、生物資  
源科学の3学科と共通講座を一緒にして本学科をス  
タートさせました。入学定員210人、所属教員数約100  
人の大所帯です。発足してから1年余り、大所帯で  
あるがための問題点もありますが、軌道に乗せよう  
と教職員一同努力しているところでございます。ま  
た、皆様ご存知のように、現在、大学の独法化の法  
案が国会で審議されております。このように、本学  
科にも大きな時代のうねりが押し寄せてきておりま  
す。今後とも、同窓会の皆様の暖かいご支援をお願  
い致します。

## 別科（草地畜産専修）の近況

別科主任 堀川 洋

別科第42期生27名が今春3月に卒業したことにより、同窓生総数は965名に達しました。先の卒業生の内、そのまま就農した者や実習・研修後に就農予定の者は各々8名ずつです。最近の卒業生の傾向をみると、その約7割が農業後継者となっています。

現2年生は19名が在籍し、今年度の入学は14名です。ここ数年は学生の定員割れが続いていますが、定員を満たすために受験生全員を入学させることは考えておりません。農業を安易に「癒し」としてとらえるだけで、農を深く考えるつもりのないその場しのぎの受験生には、門戸はなかなか開かれませんが、卒業するころには真摯に農業を考える気持ちが益々醸成されるように、少数ではあっても精鋭教育を目指しております。

別科を卒業するには、学部の卒論に相当する「特別研究」を2年次に履修しなければなりません。その課題レベルは年々向上し、研究成果のプレゼンテーションには、何人もの学部教官からお褒めの言葉をいただきました。昨年度の研究テーマを紹介しますと、「実家圃場の高低差と土壌養分の相互関係」、「トラクタの各種タイヤが土壌に与える接地圧の影響」、「オカラの飼料化と肥料化の検討」、「新規マメ科牧草ガレガの生育特性」、「改良型哺乳ロボットの有効性試験」、「スターターの強制給与による乳用雌子牛の哺乳期間短縮の可能性」、「附属農場のデータを用いた乳牛の分娩後臨床検査所見と卵巣活動再開時期との関連調査」、「放牧酪農家の搾乳作業と搾乳外作業の労働量の実地計測」、「大規模畑作経営における個人と農業生産法人の比較調査」がありました。このように別科の研究テーマは、常に農業現場を強く意識した最新技術を対象にしています。新2年生も、先輩に続けとばかり調査 研究に精一杯努力している今日此の頃です。

## これからの図書館の課題と展望



附属図書館長 石橋 憲一 (S42 農化)

国立大学法人法は現在、参議院で審議中のため、学内の法人化に向けた作業は一服状態にあります。

しかし、法案成立後、それぞれのワーキンググループは最終報告作成に向けて、多忙な日々が待ち受けております。図書館としても、図書資産目録作成など種々の課題を抱えており、どのように解決するか未だ、不明の部分も多くありますが、今年度中に解決するか目処を立てなければならないと思われま

す。図書館では、数年前より利用者のご意見を聞くために、目安箱を設置しておりますが、1) 図書が古い、2) 専門書が少ない、3) 文庫、新書などの一般図書が少ないなどの声が多く寄せられております。上記1, 2) については、学生用図書購入費が少ないため、対処できない状況ですが、毎年予算増を要求しているところです。大幅な予算増が見込められないとなれば、配分方法の検討もしなければなりません。3) については、昨年度末に追加予算が配分されたことにより、文庫、新書など約6,000冊を購入、配架したところ、貸出件数も伸びているようです。また、図書館独自の企画として、高校時代に履修していない教科の補習教材として、数学、生物、科学、物理の教科書の他、農業高校の教員を目指す学生から要望のあった農業の教科書を加え、教科書コーナーを設けました。ささやかながら、図書館の存在を認識してもらえたかと思っております。今後は、各種資格取得のための教材および留学生用図書も充実していかなければならないと考えております。

これからの図書館は、電子ジャーナル、OPAC（オンライン目録）など電子図書館の機能が益々要求されますので、学内の情報処理センターとの連携が必要と考え、センターを図書館に統合する案を作成しました。この案は情報処理の教員定員1名を要求するもので、現状では難しいものの、学長、副学長からなる役員会の意向が強く反映される法人化後には実現の可能性があると思われま

す。「競争と評価」が国立大学を象徴するキーワードとなっておりますが、このキーワードは図書館にも当てはまるものであり、学内利用者へのサービス向上は勿論のこと、公共図書館との棲み分けによる生涯学習への支援や地域貢献に対して、地域の中核的な拠点になることも大学図書館に求められていくことになると思います。同窓の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいた

## 原虫病研究センターの近況報告

原虫病研究センター長 五十嵐 郁男 (S52 獣医)

原虫病研究センターは平成13年4月に全国共同利用施設になり、研究業績、人材育成、国際協力のより一層の充実に向けてきました。昨年10月には、平成14年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点に原虫病研究センターを中核施設として全学を挙げて申請した「動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全

確保一特に原虫病研究を中心として」が生命科学部門のプログラムとして選定されました。これは、原虫病研究センターの研究業績や国際協力ならびに BSE、病原性大腸菌 0157 など人獣共通感染症に関する研究実績に加えて、「動物食品の安全監視」のために、獣医畜産領域における環太平洋地域 No. 1 の研究組織から世界「トップ 5」に入る国際的人畜共通感染症専門研究特化組織として社会不安解消に学術的に貢献するという本学の将来構想も評価されたものと考えています。また、15 年度の概算要求で、原虫病研究センターの第 3 研究部門として大動物特殊疾病研究部門の設置が文部科学省から認められました。これは、学内措置で昨年設置された「大動物特殊疾病研究センター」を文科省に概算要求したところ、16 年度に国立大学の法人化を控え、新規組織は一切認めない文科省の方針により、原虫病研究センターの整備という形で認められたものです。したがって、組織運営と教員の連合大学院資格審査上、大動物特殊疾病研究センターは原虫病研究センター所属となりますが、これまでと同様に獣医学教育の更なる充実とこれまでの研究内容の独自性が確保されます。以上の様に、原虫病研究センターでは、この 1 年間、組織の拡充、研究体制の充実が図られてきました。これを契機に、原虫のゲノムプロジェクト、新しい概念である自殺原虫ワクチンの基礎研究、感染免疫機構の解明、ベクターの免疫機構や生理活性物質、新しい診断法や薬剤の開発など更に精力的に研究の充実・発展を図って行きたいと考えております。

基礎から応用面に渡り、将来の原虫病の制圧に向けて総合的に進めています。また、増築を記念して、平成 14 年 6 月 14、15 日に「国際化時代における食の安全性の確保一新興 再興感染症、バイオテロリズム対策」と題して国際シンポジウムの開催と施設および研究内容の一般市民への公開を行いました。

シンポジウムで特別講演をして戴いたテキサス A&M 大学獣医学部のワーグナー教授から下記のような本研究センターに対する評価ならびに提言を戴きました。「原虫病研究センターは宿主抵抗性、診断法の開発、ベクター制圧、ワクチン開発などに優れた研究成果を挙げている。また、数多くの研究者、留学生、JICA 研修生を受け入れており、開発途上国の人材育成にも貢献している。今後、原虫病研究センターがアジア 環太平洋地域における原虫病研究の中心機関となり、また国際獣疫事務局や各国の大学や政府研究機関などとの連携により、国際的な研究連携ネットワークを確立することが望まれる」。今後この提言を基に、研究成果、人材育成、国際協力を原虫病研究センターの 3 大目標として、世界の原虫病の撲滅および動物性蛋白質の生産向上に貢献できるようにしたいと考えている。

この度、平成 14 年度「21 世紀 COE プログラム」研究教育拠点に帯広畜産大学原虫病研究センターを中

核施設として全学を挙げて申請した「動物性蛋白質資源の生産性向上と食の安全確保一特に原虫病研究を中心として」が選定されました。

COE プログラムは研究拠点の大小にとらわれず、特色ある研究の中から、これまでの研究実績、研究拠点形成のための計画・構想および大学の将来構想を評価して選定されました。

したがって、本学の申請課題が選定されたことはこれまでの原虫病研究センターをはじめとする本学の研究成果や国際協力ならびに BSE、病原性大腸菌 0157 など人獣共通感染症に関する研究実績が評価されたものと推察しております。

また、「動物食品の安全監視」のために、獣医畜産領域における環太平洋地域 No. 1 の研究組織から世界「トップ 5」に入る国際的人畜共通感染症専門研究特化組織として社会不安解消に学術的に貢献するという本学の将来構想も評価されたものと考えております。

21 世紀 COE プログラムに原虫病研究センターを中心とする本学の事業計画が選定されたことを喜ぶとともに、応募した課題を実現するためにこれまで以上の努力が必要であることを痛感し、身の引き締まる思いでいっぱいです。

## 法人化前夜の畜産フィールド科学センターの取り組み

畜産フィールド科学センター長 左 久

附属農場が畜産フィールド科学センターに改組されて 2 年目になります。昨年と変わったことの一つには学部 大学院学生が所属し始めたことがあります。制度上は学年進行に従って配置されるのですが、指導教員の学部からの異動に伴って前倒して学部生 7 人、院生 4 人が籍を置くようになりました。このうち、2 人は留学生です。この秋にはさらに、外国人博士研究員や留学生が加わる予定です。このような人員増に対応して施設の増改築要求をしていますが、なかなかよい返事が貰えず本当に狭くて困っています。それでも皆一生懸命に卒論や修論或いは博士論文の研究課題に取り組んでいます。従来からの繁殖や別科の学生が実習や課題研究の取り組みで、管理や草地の学生が体測や卒論研究で出入りする姿を見るのは今まで通りです。

二つ目として、永年我慢をしながら使ってきた牛乳充填機が新鋭設備に更新されました。これで HACCP 基準に準拠した牛乳生産体制が完備し、パック牛乳の高速充填が可能になりました。さらには牛乳低温殺菌装置の導入も決まり、来春には畜大牛乳にも低温殺菌のものが加わることとなります。これとは裏腹に年々学内牛乳販売量は減少の一途を辿り、最盛期の 1/3 にまで減っています。そこで、いよいよ畜大牛乳の学外販売に取り組むことになりました。

これにより、放牧や粗飼料主体飼養の牛から搾った特色ある牛乳を市民にも提供し、畜大の教育 研究活動の一端をアピールしようという寸法です。

来年から大学は法人化されます。古い体制から新しい体制への移行では、変えなければならないことと変えてはいけないことがあります。センター化して2年目に入り、この辺りの見極めを正確にしたいと考えています。昔をご存知の同窓生の皆様は、変えてはいけないことに敏感だと思います。搾乳実習や分娩観察など苦勞が多い実習教育は工夫を凝らして触覚重視型の実習カリキュラムとして大事に守りたいところですし、他大学では真似のできない酪農モデル農場の機能はより広く学内外に開放して活用していただけるよう改善していくことが大切と考えております。

同窓会会員の皆様から広くご助言を頂き、より充実した活発なフィールド科学センターにしたいとたいと念じております。たくさんのご意見をお寄せ下さい。

## ☆ 学 支 部 便 り ☆

### 帯畜大の証し人たらん



札幌同窓会副会長 安田 勲 (S31 総農)

当会（同窓会札幌支部）は、平成13年8月に隔年実施の総会を開催以来、昨14年4月には「新学長鈴木直義先生を囲む会」を幹事の他、研究室とラグビー部のOBなどを中心に、在札の有志で催しました。また、折々に幹事会をもち、去る7月1日にも、今年には総会開催の年に当たるので幹事会を開き、9月下旬に札幌市内（新しくできたJRタワーホテルではどうか、等の意見がありました）での開催を内定したところです。

今年になって当会顧問の松吉寛さん（獣医畜産科3期卒）が4月20日（79歳）に、天間征先生が5月4日（74歳）に逝去されました。その他、私どもが見落としている会員の吉報や訃報があるものと思われれます。母校の創設期に学ばれた先輩方は80歳代になられ、社会的にも大きな貢献をされた方のことな

ど、当会として母校の恩師 同窓生の動静等に一層心して参りたいと考えております。

さて、昨今の母校は時代の変化と国の施策等に対応する大学づくりを目指して、鈴木学長を先頭にたいそう厳しい取組みがされていると伺っております。先年の口蹄疫に続いたBSEの問題は、母校に期待を込めた警鐘であったように受け止められ、その対応が次々と報じられたので、我々は地域や職場等で母校への熱い思いと誇りを、さらに新たな希望を持ったのであります。

そんな時に、釧路保健所で食肉検査員として頑張っていた同窓の若い獣医師が、自らの命を絶ったという報道に驚き、本人は責任を感じて悩んだあげくのことかと、唯ただ無念の思い一入のものがありました。現代社会では意思の疎通不足が課題であると言われており、この悲しい事故は、若い専門職の孤独で悲壮な無言の告白と思われるのであります。

かねて、大学の再編や法人化が話題となり、同窓生は重大な問題と思っています。今こそ、我々は母校の研究と教育実践の証しをする責任があると考えます。そこで、広い視野と将来展望に立った高等教育機関の在り方と整備等について、世論の形成を図るため、改めて大地に根ざした帯畜大の温故知新を喚起する次第であります。

(〒061-1102 北広島市西の里 856-2)  
Tel 011-375-3406 Fax 011-375-3406

### 同窓十勝会の動向



帯広畜産大学同窓十勝会会長 大石 和也 (S33 総農)

帯広畜産大学同窓十勝会（以下同窓十勝会）の最近における状況をご報告いたします。

同窓十勝会は、以前から組織見直しをする時期に来ているのではないかと云われておりました。時を同じくして帯広畜産大学も、他の国立大学と同様に構造改革プランに従って、再編、統合と独立行政法人化へと歩み始めました。手始めに、4学科を獣医学科と畜産科学科の2学科に組み替えをしております。この様な動きの中で、同窓十勝会は何を、どの様に手助けできるか考え、組織強化を図りました。

先ず第一に、従来の年一回の例会とそれを支える役員会のみでしたが、これを例会と幹事会に分け、それを支える役員会を置くことにしました。幹事会は市町村単位、既存OB会、職域単位に分け、各組織からそれぞれ2～4名の幹事選出をお願いしました。幹事の卒業年度が片寄らない様に、10年を一区切りとして役員で選出することにしました。その結果、幹事は120名の大幹事会の構成になりました。

役員会は、副会長に重点をおいて現在12人で構成し、筆頭副会長制をとりました。そのほか幹事長1人、事務局長1人、監事2人と顧問を市町長、農業団体長、更には道議などを幹事会で決定していただきました。会長及び監事は幹事会で選出し、他の役員は会長が指名いたしました。

総会に当たる例会は、同窓本部総会と同時に開催し、決定事項は幹事会がこれに当たることにしております。規約の改正もされ、役員改選も行われました。新体制になったのが平成13年12月3日幹事会で決定され出発いたしました。

同窓十勝会をどのように母校のために役立つように作動させるか考えているうちに1年以上経過いたしました。

幸いにも帯広畜産大学では「口蹄疫」や「牛海綿状脳症<BSE>」などへの研究機関としての適格な対応、教育研究面での社会貢献や、研究活動面での地域社会との連携及び協力など、新しい大学のあり方に順調に作動していると思われまます。

食の安全が改めて問われる中で、益々帯広畜産大学の位置づけは重要となってきました。これからも更なる発展をお祈りします。

今後、同窓十勝会が大学発展に何か寄与できれば幸いだと思っております。

(〒083-0023 中川郡池田町西3条6丁目)

## 帯広畜産大学同窓会芽室支部の活動状況について



支部長 由佐 寿朗 (S41 農化)

芽室支部は、町内在住者及び町内の事業所等に勤務する者を持って構成することになっており、現在

116名の会員が登録されています。

本年度も6月に総会と懇親会を国民宿舎新嵐山荘で開催しました。

今年度の総会では、役員改選が行われ、設立から長く支部をリードしてこられた初代会長の村瀬洋一先輩(酪農科25年卒業)に替わり私が第2代の支部長に選任されました。

まだ他の役員の人選は終わっていませんが、大先輩から若者まで、多くの会員が気軽に集う支部活動を目指して、行動力のある組織を作りたいと考えています。

懇親会では、会員である大谷亨道議(別科43年修了)と常山誠芽室町長(総合農学科36年卒業)から活動報告があり、その後、母校の更なる飛躍を願いながら、和やかに懇親を行いました。

(〒082-0037 河西郡芽室町西7条7丁目2-2 Tel 0155-62-4017)

## 宮城県支部の近況



支部長 往々木 敬功 (S34 獣医)

仙台市も気象温暖化の影響であろうか、昨秋より温暖の差が大きい日々が繰り返されています。5月上中旬にはNHKテレビ放映の天気図では、釧路市に次ぐ低い気温かと思えば6月中旬には台風6号の影響もあって真夏日になるなど一寸気になる今日この頃です。

今年も3月15日(土)午後3時より支部総会に引き続き懇親会を仙台市内のホテルにて開催しました。当支部の会員数は90名余の大所帯になっています。昨年の総会で出来るだけ多くの方々に参加してもらえよう、また、年配の方にも参加出来る季節と時間帯を設定しましたが、期待に反し参加者は16名でした。

会は型の如く進み近況も含めた全員の自己紹介の後、総会の持ち方について話し合いましたが、なかなか良い案も見つからず会報と共に総会や懇親会の写真を付けてPRし、参加者を一人でも多くなるようこの会を継続しようと言うことになりました。

また、話題になったのは母校・畜大が平成16年には国立大学から国立大学法人となるとの話で不確実な情報のなかで母校の先行き等々で持ちきりとなけ

ました。

仙台には本学を離れられた先生方も講演の講師や学会・研究会のためお見えになります。昨年11月には「光本孝次」先生が肉牛研究会に、また、今年の1月には独立行政法人・農業技術研究機構・動物衛生研究所プリオン病研究センター長の「品川森一」先生が宮城県獣医師会主催のBSE研修会の講演の講師として来仙されました。こうした機会をとらえ、都合のつく同窓生に連絡し懇親会を開いたり、参加同窓生の懇談などの機会を作っています。

前回にも述べましたが、若い人の参加者が少なく畜大と云えども時代とともに同窓と言う結びつきが年代と共に薄れて行くような気がします。次回には若い幹事さんを増やしたいと考えていますので多数の参加を願います。

幹事兼世話人は次の方々です。

総務：藤本長之 (S53 畜環)、会計：伊藤直言 (S36 酪農)・建久茂樹 (S63 獣医)、幹事：安部優 (S31 獣医) [前支部長]・幹事：長曾我部紘 (S37 獣医)・大槻車夫 (S39 酪農)・笠井晋 (S42 酪農)・千葉正彦 (S45 農工)・千葉比呂志 (S57 畜環)

(〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目6-25 宮城県牛乳協会 Tel 022-222-5225 Fax 022-268-0093)

## 【新潟県支部】



会長 小林 悦夫 (S32 獣医)

新潟県支部では、今年の11月30日に新潟市で同窓会を開催しました。当支部の会員は40名ほどいますが、出席者は12名(写真)でした。当日は会員の近況及び帯広の思い出などを語り合い、相互の親睦を深めました。

出席者：(写真後列左から) 荒川治男 (S36 獣医)、佐藤克之 (S56 工学)、楠原征治 (S40 獣医)、五郎谷克二 (S38 獣医)、宮下茂 (S53 酪農)、里麻啓 (H9 獣医)、里麻美喜子 (H8 獣医旧姓池上)、(前列左から) 佐藤(事務局)、藤田毅 (S54 酪農)、小林会長、石田秀史 (S53 獣医)、伊藤道秋 (副会長 S38 総農)

そのときの話題として、平成16年4月からの国立大学の独立行政法人化、再編統合等の問題で母校の今後がどうなるのか心配していましたが、平成13年9月のBSEの発生当初、わが国での唯一の確認検査機

関として母校の名がたびたび報道されたこと、また昨年10月には文部科学省の「生命科学中核研究拠点(COE)組織」として全国28機関の1つとして選定されたとのことで、母校の存在価値も一段と増して大変心強く、誇りに思っています。昨今、「食の安全、安心」が叫ばれ、生産者ばかりでなく消費者にも向いた対策も考慮しつつ、日々その対応に追われていますが、新潟県では24ヵ月齢以上の死亡牛検査については、今年度中に採材検査施設を整備し、その後全頭検査体制を取る計画になっています。[記、事務局佐藤将典 (S46 獣医)]

写真は昨年同窓会の際の例です(佐藤)。

(〒943-8551 上越市本城町5番6号 新潟県上越家畜保健衛生所 Tel 025-526-9441, Fax 025-522-1724)

E-mail S066060@mail.pref.niigata.jp

## 関東同窓会の近況



関東同窓会長 田中 正三 (S31 獣医)

昨年6月の関東同窓会総会において、守田貞公(S28 獣医)前会長に代わり会長に就任しました。新しい役員・事務局の皆さんの御協力と御支援を頂きながら、当会の一層の発展と活性化に向けて努力する所存です。皆様の暖かい御支援と御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

関東同窓会は、昭和30年頃から在京の諸先輩方で作っていた集まりを発展させて、昭和55年3月初代会長に務合方彦氏(S18 獣医)、幹事長に亀谷勉氏(S25 獣医)を選出し、新しい同窓会として発足しました。会員は、東京都を中心とした関東6都県に在住又は勤務する卒業生等で構成され、平成15年3月現在の在籍会員は1300余名です。

平成15年度の総会および懇親会は、6月21日(土)東京・銀座ライオン7丁目店で56名の出席を得て開催しました。

総会は、渡部(憲)幹事長の司会で、会長挨拶に続いて議事に移り、平成14年度の事業報告及び決算報告並びに監査報告、平成15年度の事業計画及び予算(案)が審議され、何れも満場一致で可決承認されました。

続いて行われた懇親会では、冒頭に、御多忙の中



母校から来賓として御出席頂いた新学長の鈴木直義氏 (S30 獣医)、及び副学長の長澤秀行氏 (S53 獣医) から、「大学改革の中での母校の近況」について約 30 分に亘りご講演をして頂きました。

丁度、国立大学の統合・再編や独立行政法人化の問題で種々の対応を図っている最中であり、しかもその責任者であることから、公表し難いことも多かったと思われるが、お話の要点はおよそ次のようでありました。

近年の世界的不況と急激な国際化の影響を強く受けて、平成 3 年ごろから文部省主導で大学改革が進められており、とくに最近では、「教育・研究活動の個性化」と国際的水準への質的充実」が強く求められている。帯広畜産大学では、平成 14 年度にはこれまで 4 学科構成であったものを獣医学科と畜産科学科の 2 学科に改組して、新入生を受け入れているほか、学部教育と研究組織を分離して強化を図っており、既設の 2 専門研究センターに加えて更に必要なセンターを立ち上げて、夫々特徴ある個性的専門職教育ユニットを構築し、広い農畜産知識を有する専門人養成組織にする構想で、学内の教職員一丸となって一步一步その実践に向け努力しているところです。同窓の皆様にはこの点をよく御理解頂いて、折に触れて御支援下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

懇親会后、鈴木学長は所要のため欠席でしたが、役員を中心とした有志による長澤副学長を囲む二次会が持たれ日頃のご苦勞をねぎらうと共に、活発な意見交換が行われて、それぞれが母校を思う熱い情熱をぶつけ合って、それぞれ異なった職場や環境にあっても母校の発展を願う気持ちは一つであることを強く認識し、必要な時は、出来る限りのお手伝いをしましょうと言う事を確認しあって散会しました。

国内屈指の酪農地帯の真ん中に立地する唯一の畜産系国立の単科大学であり、その創立の経緯を紐解くまでも無く、酪農家はじめ地域の関係団体の大学に寄せる期待は非常に大なる物があると言われていきます。母校出身の学長さんを迎えて、並々の発展を心から御期待申し上げます。

(〒 359-1142 所沢市上新井 201-10)

## 帯高獣生



兵庫県支部会長 高木 重広 (S19 獣専)

第 2 次世界大戦たけなわの昭和 17 年 4 月帯広高等獣医学校に入学、在学中に帯広獣医畜産専門学校に校名変更され、昭和 19 年 9 月に 6 か月の繰り上げ卒業。

在学 2 年 6 か月、牧場実習の名目で軍馬補充部の育成場に又農場実習として開墾地に巨木の抜根作業の重労働に就労、学業は甚だ不足ながら戦争のお陰で即席の獣医師と装蹄師の資格を修得することができました。現在の 6 年間の修得、国家試験制度と比較すると夢のような話です。

その間全寮生活を送り、戦争中の食料不足の折り、お互いに一つ鍋をつつきながら飢えを凌ぎました。その苦しい境遇の中、友愛の絆が結ばれました。その貴重な体験を後輩各位が受け継いで現在に至っていることは共感の限りです。

卒業以来度々母校を訪れましたが、木造の旧校舎は鉄とコンクリートに変わり昔の面影を偲ぶ様子もありませんが、私達が落葉樹の苗木を植樹しましたその木々が、60 年経過した現在立派な巨木となり聳え立っている姿は感無量の想いでした。

さて、同窓会兵庫県支部ですが、現在の会員数は 100 名を超え、毎年 1 回の役員会と総会を開催し、お互いに友好を温め、絆を強めております。

経済のバブルとあい重なり平成 7 年 1 月 17 日の未曾有の阪神大震災という惨事は、原型に復旧するまでには今も至っていませんが、卒業生各位はそれぞれの立場で懸命に頑張っております。

私の人生にとって同窓生相互の絆は掛け替えのない宝であり、大切に守りたいと念じています。

(自宅 Tel 06-6437-5862)

【総会および懇親会のご案内】

平成 15 年 9 月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長 高田 薫

平成 15 年度の帯広畜産大学同窓会総会と懇親会を下記の要領で開催いたします。会員各位の出席をお願い申し上げます。

記

日時：平成 15 年 10 月 18 日(土曜日)午前 11 時より

場所：農協連ビル 5F 大会議室  
(帯広市西 3 条南 7 丁目)

- 議題：1) 平成 14 年度事業報告  
2) 平成 14 年度会計報告  
3) 平成 14 年度会計監査報告  
4) 役員改選  
5) 平成 15 年度事業計画  
6) 平成 15 年度予算案  
7) その他

懇 親 会

日時：平成 15 年 10 月 18 日(土曜日) 総会終了後

場所：農協連ビル 5F 大会議室、会費：4,000 円

なお、大変恐縮ですが、総会、懇親会へご出席いただける方のみ、同封のハガキに所定の事項をご記入の上、10 月 6 日(月曜日)までに必着でご投函下さい。これも経費節減のためと、ご理解いただければ幸いです。連絡先：西村昌数(事務局長：0155-49-5365)、辻修(庶務：0155-49-5510)、小俣吉孝(会計：0155-49-5356)

庶務便り

〈平成 15 年度事業計画〉

- 平成 15 年 10 月中旬 3 年次編入学および大学院合格者へ協賛金納入願いを発送  
10 月 18 日 帯広畜産大学同窓会総会(農協連ビル)  
11 月下旬 第 1 回役員会  
12 月中旬 別科推薦入学および学部推薦入学合格者に協賛金納入願いを発送  
12 月下旬 畜大便りを各支部へ発送  
平成 16 年 2 月上旬 大学院、帰国子女および社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送  
3 月上旬 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送  
3 月中旬 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布

3 月 19 日 卒業式(会長祝辞)

3 月下旬 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送

4 月中旬 畜大便りを各支部へ発送

7 月上旬 第 2 回役員会及び代議員会

8 月下旬 畜大便りを各支部へ発送

9 月下旬 同窓会報、名簿頒布案内の発送

同窓会名簿担当からのお知らせ

樋口 昭則 (S46 酪農)

同窓会名簿の頒布部数は年々減少し、赤字を続けていたことから、平成 10 年より隔年発行になりました。名簿の管理は、毎年発行される同窓会報を発送する際に住所等変更届を同封し、また、名簿原稿を学内各研究室や名簿委員にチェックしてもらおう等して、訂正作業を行っています。それでも不明者の数は減らず、名簿の巻末にたくさんの不明者一覧を記載しています。その中に消息をご存じの方がいましたら、Fax (0155-49-5439) または E-mail (higuchi@obihiro.ac.jp) を利用してお知らせ下さい。また、ご自身の住所 勤務先等に変更がございましたら、添付の無料はがきにご記入の上、ご返送下さい。

名簿の協賛広告は、平成 14 年度版では、不況のせいか大幅に減少して、裏表紙だけになってしまいました。広告収入だけで名簿を発行している大学もあると聞いています。同窓会会員各位も、自営者だけでなく、勤務している会社関係等でも大いに活用していただきたいと思えます。

同窓会名簿の発行にも、プライバシーの問題を意識せざるをえなくなってきました。14 年度版からは、勤務先や自宅住所の記載を希望されない方については、「不掲載希望」と記入しています。以前から掲載を希望されない方がいて、その場合は不明者と区別がつかない形になっていました。そのため、研究室や友人から住所を知らされても載せることができず、ご迷惑をかけていました。その点を改善いたしました。

また、今回から「会則第 5 条第 4 項による会員」を新たに設けました。代議員会が会員として認めた者です。対象者は畜大を中退された 1 名で、大阪支部長として長年にわたり同窓会に貢献されている方です。

次回の名簿発行は、平成 16 年 11 月末を予定しています。その間には、自治体の大幅な合併等、大量の住所変更が想定されます。迅速に対応したいと考えていますが、皆様からの住所変更届等もよろしくお願ひします。

名簿の編集は、14 年度版から担当者が代わりました。まだ、タイムスケジュールや行うべきことを十分に認識していないため、皆様に多々ご迷惑をかけているのではと、恐縮しています。長年にわたり名簿編集を担当されてきた三上先生の偉大さにあらためて感心している次第です。

平成 13 年度会計報告  
帯広畜産大学同窓会平成 13 年度決算報告書

(平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 9 月 30 日)

[ 通常会計 ]

収入の部

項 目	H13 予算額	H13 決算額	増 減	備 考
前年度繰越金	4,674,457	4,674,457	0	平成 12 年度より
名簿販売	30,000	628,000	598,000	名簿 (206)、広告 (1)
協賛金、終身会費	4,500,000	4,060,000	△ 440,000	協賛 (193) : 終身 (21)
雑収入	5,000	62,295	57,295	預金利子、エコーハガキ等
60 周年記念事業	0	2,217,908	2,217,908	60 周年記念事業余剰金
特別会計より	0	5,471,746	5,471,746	郵貯満期 (5,079,000)、生保 (392,746)
合 計	9,209,457	17,114,406	7,904,949	

支出の部

項 目	H13 予算額	H13 決算額	増 減	備 考
印刷代	1,500,000	1,137,497	△ 362,503	封筒印刷ほか
大学後援経費	300,000	300,000	0	学術交流支援 20 万円、後援会賛助会費 10 万円
通信、郵送料	1,000,000	761,156	△ 238,844	会報等の発送、料金受取入払ほか
人件費	400,000	226,000	△ 174,000	名簿整理等のアルバイト代
振替手数料	100,000	39,435	△ 60,565	名簿代、協賛金、終身会費の振込
事務費	100,000	25,052	△ 74,948	事務用品、コピー代ほか
会議費	200,000	149,710	△ 50,290	事務局会議、役員会、総会ほか
交通費	100,000	1,167,360	1,067,360	60 周年記念旅費、会議旅費
役員手当	150,000	0	△ 150,000	14 年度に 2 年分一括支払い (経費節減のため)
記念品代	250,000	441,000	191,000	協賛金納入者 (キーホルダー 400 個)
二重払い払戻し	0	0	0	
特別会計へ	3,000,000	0	△ 3,000,000	特別会計への移行見合わせ
予備費	2,089,457	0	△ 2,089,457	14 年度名簿印刷予備費
雑費	20,000	4,126	△ 15,874	慶弔電報ほか
合 計	9,209,457	4,245,336	△ 4,964,121	次年度へ繰り越し : 12,863,070 円

[ 特別会計 ]

収入の部

項 目	H13 予算額	H13 決算額	増 減	備 考
前年度繰越金	17,079,402	17,079,402	0	定額郵便貯金 + 貯蓄型養老保険 + 定額貯金
利子	0	92,344	92,344	
通常会計から	3,000,000	0	△ 3,000,000	(新規口座開設見合せ)
合 計	20,079,402	17,171,746	△ 2,907,656	

支出の部

項 目	H13 予算額	H13 決算額	増 減	備 考
通常会計へ	0	5,471,746	5,471,746	郵便貯金満期、養老保険満期
合 計	0	5,471,746	△ 5,471,746	次年度へ繰り越し : 11,700,000 円

平成 14 年度会計報告  
帯広畜産大学同窓会平成 14 年度中間報告

(平成 14 年 10 月 1 日～平成 15 年 6 月 11 日)

[ 通常会計 ]

収入の部

項 目	H14 予算額	H14 決算額	増 減	備 考
前年度繰越金	12,863,070	12,863,070	0	平成 13 年度より
名簿販売	1,000,000	748,000	△ 252,000	200 部 x3,000 円 : 広告 3 件 148,000 円
協賛金、終身会費	4,100,000	3,472,000	△ 628,000	20,000 円 x169 (協賛) : x4 (終身) : 12,000 円 (寄付)
雑収入	5,000	192	△ 4,808	預金利子
特別会計から	0	0	0	
合 計	17,968,070	17,083,262	△ 884,808	

支出の部

項 目	H14 予算額	H14 決算額	増 減	備 考
印刷代	4,500,000	2,808,750	△ 1,691,250	封筒印刷ほか
大学後援経費	300,000	0	△ 300,000	学術交流支援 20 万円、後援会賛助会費 10 万円
通信、郵送料	1,500,000	258,333	△ 1,241,667	料金受取人払ほか
人件費	400,000	320,200	△ 79,800	名簿整理等のアルバイト代
事務費	100,000	287,635	187,635	ソフト開発代、事務用品、コピー代ほか
会議費	200,000	88,000	△ 112,000	事務局会議、役員会、総会ほか
交通費	100,000	21,000	△ 79,000	役員会会議旅費
役員手当	300,000	280,000	△ 20,000	14 名分
記念品代	0	0	0	在庫あり
協賛金返還	0	20,000	20,000	退学者 1 名
予備費	4,448,070	0	△ 4,448,070	14 年度名簿印刷予備費
雑費	120,000	35,830	△ 84,170	振込手数料
合 計	11,968,070	4,119,748	△ 7,848,322	

[ 特別会計 ]

収入の部

項 目	H14 予算額	H14 決算額	増 減	備 考
前年度繰越金	11,700,000	11,700,000	0	13 年度繰越
利 子	0	349,668	349,668	養老保険満期利子
合 計	11,700,000	12,049,668		

支出の部

項 目	H14 予算額	H14 決算額	増 減	備 考
通常会計へ	0	0	0	
合 計	0	0	0	